ジモトで座談会～市長と明日のまちを考えよう～　ｉｎ梓川地区　報告書

１　開催日時

⑴　日　時　　令和６年１１月２８日（木）　午後３時～午後５時

⑵　場　所　　梓川保健センター　大会議室

⑶　テーマ　　地区の課題とのるーと松本の利用促進による地域づくり

⑷　参加者　　臥雲市長、宮之本副市長ほか４３人

（参加者 16 人、傍聴者 21 人、市関係者３人、センター職員３人）

２　趣旨

梓川地区の課題も他地区同様、少子高齢化、町会役員のなり手不足、空き家の増加などがある。生活形態の変化も伴って、町会では人材確保に苦慮している。

このような中、昨年１０月から実証運行中である「のるーと松本」については、地域住民の利用促進活動により、来年４月からの本格運行が決定となった。市からは、運行について地域住民が主体的に考え、よりよい交通サービスとして育てる意識を持ち、利用促進を進めることが条件とされた。

地区の課題やのるーと松本の利用促進活動について、地区としてどう考えどのように進めていくか、市長、副市長と意見交換を行った。

3　次第

⑴　開会

⑵　市長挨拶

⑶　地区代表挨拶

⑷　参加者の紹介

⑸　座談会

ア　のるーと松本利用促進による地域づくり

（ｱ）これまでの運行経緯と現状、町会アンケート結果概要について

（ｲ）地区からの意見の発表

・地域で行っている利用促進の取り組みについて

・新しいアイディアと地域でできることについて

・市への提案について

イ　梓川地区の課題について

（ｱ）農業後継者について

（ｲ）若者が地元に戻るためについて

（ｳ）町会のなり手不足について

⑹　地区代表まとめ挨拶

⑺　閉会

4　座談会内容

⑴　のるーと松本利用促進による地域づくり

ア　これまでの運行経緯と現状、アンケート概要について説明

【センター長】

アンケート回答者７割が利用したことがない。理由は自家用車を利用しているため等。アンケートから見えてきた課題は、運行日、運行時間、乗降ポイントの３つ。地域アンケートから見えた住民ニーズを考慮し、結果として利用しにくいものにならないよう、地域と行政との意見の交換や調整が必要。

イ　地域での利用促進の取組み

【民生委員】

民生委員会の時にも利用している。将来のための投資ととらえ乗ってい

る。日中は高齢者利用が多いのに、ステップが出ない車両があり問題。
　保育園では、園児が無料利用できるので、２６日に利用した。来年は、遠足などで活用を計画中のため、未就学児童は無料を続けてほしい。
　学生利用については、朝７時からの利用ができれば送迎の軽減、交通量抑制にもつながる。市は松本駅、お城周辺の車の乗り入れの抑制の方針とのことなので、梓川ののるーと松本の利用はその役にたつと思っている。
　利用した際に、目的地を一度通り過ぎてから戻って目的地についた。登録誤りだったのかと心配になった。システムの問題なら改善してほしい。
　将来を担う子どもたちのために、未就学児童の無料は継続してほしい。
【横沢第３町会長】
　ひろば事業のウォーキングの会で活用。十数人で利用。のるーとの活用により遠距離まで行って、ひろばに戻ってこられるようになった。今まで行ったことがない地域を歩け、行動範囲が広がった。ただ、料金設定が高い気がする。４月からの運行に向けて、利用者要望を踏まえて改善してほしい。

【市長】
　広い市域の松本市。地域特性に即して持続可能な交通をどう考えていくかが課題。今後も自家用車が、主軸の移動手段であることは変わらない。電車、定時定路線バスが幹の部分、葉の部分の手段の一つがＡＩデマンド交通。ある程度の人口がまとまっているエリアの、寿、梓川で実証運行。みなさんの要望を受けることと、一方でコストの問題、この兼ね合いをどこに持っていくか、最適なところを本格運行の４月までに探っていく。
　この１年間、皆さんにとって不便であったと思う、実証運行の間はベースの必要性がどのくらいのところにあるのかを探るため、また国交省の変更手続きに時間がかかるため、変更しないで運行した。本格運行までの間に、皆さんの意見を踏まえ、検討をしていく。保育園利用、雨天時の高校生の利用も重要。あわせて、高齢者の利用を習慣化していただくこともきわめて重要。車両も改善できることは、改善しなければいけないと思う。

【副市長】

梓橋からのるーと松本に乗ってきた。途中で男性が乗車、「郵便局」から女性が乗って「たまりや」で降りた。交通空白地域での交通が定着してきたと感じた。

※別紙資料「のるーと松本利用状況」を説明。

梓川地区だけが住民アンケートを取り、市に提言書を提出した。梓川地区が熱い思いを持っている地域と感じた。１日５０人、１回走らせると 1,500 円かかる。1,200 円公費、個人負担３００円の計算から、５０人という数字を出した。９月に入って急激に乗車人数増えた。定時路線バスに乗っている人たちがのるーと松本に移行してもらえれば、１日５０人を超えてくるだろうと考えた。現時点での運賃や時間等の変更は難しい。

松本市内のタクシードライバーは３２０人。５年間で、２５％のドライバーが減っている。９時から５時までの時間は、比較的タクシー運行がない時間帯。タクシー事業を圧迫しないことも理由にある。いずれは自家用車輸送も視野にいれることを検討していければと考えている。

【田原交通部長】

車両にステップがないのは課題と感じた。日中高齢者を対象としているので、検討していきたい。目的地を通り越してまた引き返すようなＡＩ運行の仕組みの改良について、乗ってみて感じたので検討していく。

ウ　新しいアイディア、地域としてできること、市への提案

【松本商工会議所　梓川青年部】

梓川地区花火大会を開催し、大成功に終わった。感謝をしている。商売上、サービスについての提言をしたい。ありがとうの言葉に充実感がある。梓川の飲食店もコロナで打撃をうけた。のるーと松本に乗って飲食店に行こうという中で、のるーと松本の利用者に対して、サービスやポイントの提供をしてよいという店がある。ただし、現在の運行時間が課題ではある。

【氷室第２町会長】

町会や地区で、のるーと松本を利用したスタンプラリーなどの開催。運転免許証返納者へのＰＲや、安協と協力した事業ができそうだ。

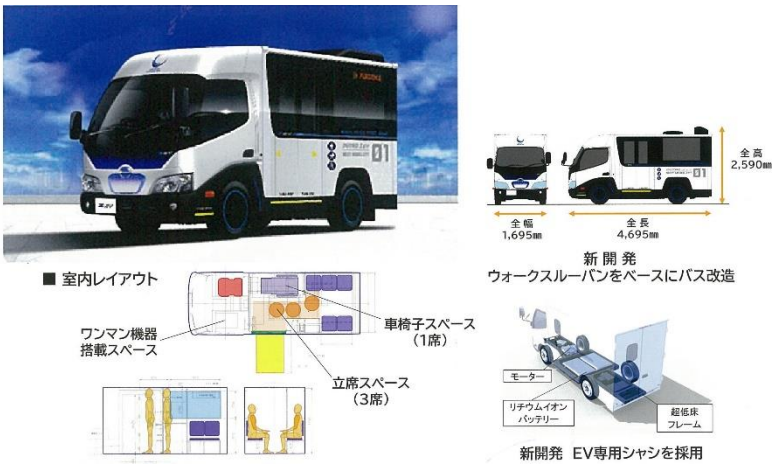
【小室町会長】

ふるさと公園まで昔は定期バスが通っていたが、今はない。小室町会は１５０戸の町会、高齢者が多い。高齢者クラブの意見として、５年、１０年先は、後継者がなく、近所に頼る人もいないため、のるーとは絶対必要。できたら松本駅まで行ってほしい。

【南大妻第１町会長】

高齢者は医療機関や買い物が主な利用。家族に頼らず利用できるという安心感がある。また子ども料金は高校生まで含めてもらえると通学に使いやすいし、交通渋滞の緩和にもなる。また、松本市内の中でも運賃にばらつきがある。福祉１００円バスやスマホ決済など。公平感を持った運賃形態の検討と、高校生対象に運賃や時間帯の検討をお願したい。

【下角町会長】



今の車両は使い勝手が悪いという声がある。トラックを改造した小型のＥＶバスがある。このような車両を導入してみたらどうか。

高齢者はなかなか自家用車を手放さない。車依存の意識をどう改革するか。また、複数の場所の利用の際に、その都度３００円払わなければならないので、３か所目からは割引とか、回数券が検討できないか。

【北大妻第１町会長】

本格運行になるが、それをいつまでやるのか明確になっていない。５年間は継続するなど、終了地点を決めるなどして、方向性を示してほしい。日々の目標、月次の目標ばかりでは、長期的な施策は難しい。目途を示してほしい。短期的な目標を継続していくと成績が悪いからやめようとなるので、将来に禍根を残す結果となる。中長期的な目標を設定し、一つ一つ進めれば、のるーと松本の方向感も出てくる。財政的な問題もあるが、腹をくくって進めてほしい。

衆議院選挙の立ち合いやったが、３分の１が杖をつくなどの高齢者。何人かはのるーと松本を利用したと話していた。出前ふれあい健康教室事業を北大妻地区で開催したときに、参加者から、これからものるー松本はずっと続くのかと聞かれた。運転免許証を返納したいが、のるーと松本がこの先続くのか心配だとの声がある。

【市長】

２つの大きな指摘に回答したい。本格運行とはについて、未来永劫運行するものではない。また、半年、１年という短期でもない。４月のスタートまでに、地元の皆さんとの協定を整理する必要があると考えている。その場で何年までやるのか、見直しは何年後にやるとか話し合う。例えば３年、５年。定時定路線バスを公設民営化したが、５年の契約期間を設定した。アルピコ交通以外、今後出てくる可能性はゼロではないので、５年後に契約更新というもの。のるーと松本の本格運行の長さの参考になる。

もう１点、運賃体系の公平感について、利用者が減ったことによるバス路線の縮小に伴い、バス路線がなくならないように検討を重ねてきた。ダイヤの在り方などバラバラ感を一定の統一感をもたせる。その意識を統一して取り組みを進めている。公平感のある合意形成が必要。子ども料金の高校生への拡大もポイントと感じる。

【交通部長】

高校生の料金までは、まだ検討していない。小中学生の料金については考えていきたい。高校生は朝の通学時は定時定路線の活用、日中はデマンドというのが市の考え方。

【副市長】

北大妻第１町会長さんの意見は大切。いつまで続くかわからないものに免免許証を返納できないというのは、そのとおり。収支率は赤字のレベルを一定程度に留めようという話です。例えば４０人ぐらいであれば、今後こういう対策をとっていけばいいとなるが、なぜ９月平均は５０人乗っていた人が、１１月１８日は１８人に減少してしまったのか、私は不安です。

【センター長】

地域の皆さんの気持ち、なくなったら困るという人たちが９月に乗った。

【市長】
　無理をして乗ったというのが実態。タクシードライバーの減少、タクシー会社の利害、それがどうにかならないかというのが私の役割。国の法律改正をどう促していくかが、我々の使命。大きな流れとして、ドライバー不足は構造的な問題、国レベルの問題。利用時間の拡大について、交通部にはぎりぎりまでやってもらう。それができなかった場合、他の利便性の検討を。移動支援の担い手の確保について一緒に考えていかなければいけない。

⑵　梓川の課題について、農業後継者、若者不在、町会のなり手不足
　ア　農業後継者、里親制度について
　【松本市梓川新規就農支援里親の会副会長】
　　新たな就農事業を立ち上げてもらい、感謝している。新規就農者４人の応募があった。県内りんご生産量の４割を、ＪＡあづみ、ハイランドが担っている。りんご栽培の担い手の平均年齢６５歳、そのうちの８割に後継者がいない。今後、空き農地が増えていく。来年以降も新規就農事業の継続をお願いしたい。里親制度をつかってくる人が入居する住宅がない、市営住宅や教員住宅が空いているので、貸してほしい。
　【市長】
　　農業をやりたいという人のすそ野は広がっている。市内では今井地区が活発。ライフスタイルの変化、農業は生産性低く収入低いがやり方によっては生産性が上がると考える人もいる。住宅の課題に対して、来年度から一定程度の支援策をやろうと考えている。安曇地区でデュアルスクールを行っていて、移住につながっている。教員住宅の提供、地域住民の空き家活用も行っている。地域特性を見ながら有効活用できるように検討できる。

【産業振興部長】
　新たな事業は地域の皆さんの取組みがあってこそで、逆に感謝したい。新規就農者の移住について、重要な課題と認識している。家賃補助制度があるが、農業の現場の農地と住居は近いというのが理想ですし、作業場や農機具倉庫など多々必要となってくる。将来的には借家は厳しい。地域の中で活用できる家屋や空き家の情報を新規就農者に提供することが重要。就農していくということは、地域で暮らすということ。受け入れる地域の皆さんの協力も重要と感じている。
【南大妻第１町会長】
　一昔前は、定年が５５歳、６０歳で定年後に農業に就労した。今、定年は６５歳で農業への就労は厳しい。市町村合併で、農協の区割りが分かれた。市としての将来像は？
【市長】
　市町村合併で、ＪＡと行政区域のねじれがあるのが梓川地区。ＪＡが将来的に一本化は現実的ではないと思う。制度のはざまを、みなさんと取組んでいく。定年延長により農業を継ぐということ難しくなっていることは、理解している。若い世代の就農意識が出始めたので、農業で生計を立てられる状況を作りたい。

イ　若者が地元へ戻るために
【丸田町会長】
　若者が地元へ戻ってこないのが丸田町会の現状。小中学生２０人程度。昔からの住民と４０年前にできた団地が半々。どちらも若者が減少し、老夫婦２人世帯が多く、将来的には独居、消滅となる。町会行事やお祭りの役員がなり手不足になっている。八景山橋や波田下島に高速道路のインターができるが、県道沿いに道の駅の誘致や、商業誘致などできないか。

ウ　町会役員のなり手不足について
【大久保町会長】
　県外からの移住者で、住所を移さず短期生活者、町会へは入りたくないという人がいる。このような場合の他地区での対応など、情報があれば提供をお願いしたい。
【松本商工会議梓川青年部会長】
　花火への協力に感謝している。なんとか梓川を盛り上げたいと活動している。私も、もともと梓川の人間ではないが、移住者を増やしていくことが大切だが、土地利用の問題で梓川に家を建てられないという現状がある。農地との兼ね合いもあるが、どうにかならないか。

【市長】

３５地区を回っているが共通課題である。地域の互助組織としての町会が、持続可能な地域の前に、町会が持続可能でなくなるという問題。行政が強制的に加入させることは反発が多く、難しいと推測される。郷に入れば郷に従えという言葉があるが、折り合いをつけるのが大切。成り立つために移住者の考え方をどこまで優先させるかを考えていかなければならない。従来の考え方を変えていくことも重要。農業振興のための施策より、農業地域での居住についての施策が大きくなっている。将来的に日本の人口が３分の２になっていく中で、市レベルを超えての課題。

【産業振興部長】

農地の土地利用、新たな土地利用については農地を活用していかなければならない。農地利用については、いくつものハードルがある。インフラ整備と合わせ、考えていかなければならない。ルールの中でできることを一緒に考えていきたい。

５　地区代表者お礼と挨拶

【町会連合会長】

のるーとの課題が出されたので、ご検討ください。要望ばかりでなく、私たちも何ができるか考えていく。農業の課題は松本市全体の課題だと思うので、検討をお願いしたい。

【市長】

３つのことを申し上げたい。

１　のるーと松本、皆さんとともに松本のような広い地域で、何とかしっかり作り上げたい。要望は直ちに実現できないものもあるかもしれないが、中長期視点に立ってやりたい。梓川で成功すれば、いろんな形態につながると考えている。

２　梓川は農業や食の重要なエリアである。給食センターも、梓川小学校近くに新しく作る計画がある。農業、食の観点から、地産地消、食育に力を入れていきたい。

３　中学校の部活動の地域移行について、梓川は以前から地域全体で小中学校のスポーツ活動を支える仕組みのあった地域。モデル地区として取り組みいただいている。梓川で子どもを育てること、梓川で子どもが育つことが、素晴らしい豊かな暮らしにつながることを、実践できたらと考えている。

６　閉会